

平成 30 年 11 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中斎塾 北関東フォーラム  
平成 30 年度 第 10 回**

**誰もが辿る道**

ようやく佐藤一斎の本を書き終えました。

佐藤一斎は、晩年講義をする際、見台の資料を端から端までずっと解説をして、終わると又もとに戻って、同じことを話したそうです。お弟子さんがページをめくると、それにそった講義を始めるという具合で、今で言う認知症の症状がありました。三島中洲もそうですし、安岡正篤先生も晩年、同じ話を繰り返して話しておられ、母親に連れて来られた子供が「先生はまた同じことを言っている」と言い出して、周りがざわついたことがあったそうです。

そのうち誰もが辿る道だと思いますが、齢をとると同じことの繰り返しが始まるようです。私も、講義で何度も同じ話を繰り返すようになったら退場だと思っていますが、実際にそうなった時に、自覚する方法を自分で持っていなければいけません。皆さん、大体そういう感性を持っているようですね。

嵐山の荒井桂先生は、花の香りが分からなくなったので自分の限度を自覚したと言っておられました。人間の五感で最初に衰えるのは嗅覚なのだそうです。木内孝顧問は、お医者さんに言われて第一線を退かれましたが、その後、よく分かっているはずの道に迷ってしまって、ご自分の症状を納得し自覚されたようです。

私の母親は 97 歳で亡くなりました。94 歳の時に脳梗塞を起こしてから、急激に悪化しました。認知症も発症しましたが、本人には分からないだろうと思っていました。ところが、脳梗塞を起こして 2 年後くらいでしょうか、母親が「昨日の事を覚えていない。どうもおかしい。自分が壊れ始めているんじゃないか」と言い出しました。私は「加齢だよ。ただの物忘れだよ」と言って誤魔化しましたが、物忘れだと本人が納得していれば、緩やかにソフトランディングして行きます。ところが自分が壊れてくるという不安感を、「そうだと認めると、一気に落ちるようです。ですから、悟るというのは怖いですね。

本日のテーマは「悟り」です。「悟り」というのは、納得をするということです。自覚するといってもよい。大きな自覚が「悟り」です。

先ほどの自分が壊れてくるという大きな悟りは、自分自身の死を意識するわけですから、

一気に悟られるのと、ゆっくりゆっくり悟っていくのとどちらが良いかは、自分で選ぶのがよろしいですね。自分で選べなければ、周りの人がそういう環境を作ってあげることだと思います。

先月亡くなられた代表幹事の会社の創業者である川村さんは、計算も出来て、記憶もしっかりしていて、まさに大往生でした。出来得れば頭がきちんとしていて最後は कोरोリ というのがとても良いことだと思いますが、そうならない場合は、周りで色々と環境設定していく必要があると思います。そのポイントが、本日のテーマ「悟り（木内信胤）」です。

何度もお話していますが、木内信胤先生は「死ぬことは少しも怖くないが、気が違うのが困る」と言っておられました。私もだんだんそういう年代に近づいてきたということ、否応なく分からせられます。

### 民徳として称することなし

では、論語の解説に参ります。本日は季氏篇 11、12 です。その中で時事評論を絡めてお話しします。

【十一】 ぜん み およ 善を見ては及ばざるが如くし、ふぜん み ゆ さぐ 不善を見ては湯を探るが如くす。吾 われ 其の人を み 見、吾 われ 其の語を き 聞けり。 いんきよ 隠居して以て其の もつ 志 そころざし を求め、 もと 義 おこな を行いて以て其の もつ 道 そ を達す。 われ 吾 き 其の語を いま 聞けり、 そ 未だ ひと 其の人を見ざるなり。

孔子が言うには、善い行いを見たら、自分も世のため人のためになるような行いをしたいと思うけれども、力が足りずに実行できないことを畏れる。悪い行いを見たら、熱湯に手を入れて引っ込めるように、悪事に触れないようにする。

私はそういう人を見ているし、話も聞いている。

隠居をしても理想を求め、正義を実行してその道に到達する。そういう話を聞くけれども、私はまだそういう人を見たことがない。

ポイントは「未だ其の人を見ざるなり」です。孔子が、自分もそういう努力をして近づきたいということでしょう。

自分が引退した後、どういう人生を選ぶか・・・とこの文章を捉えましょう。一昔前は、「ぬれ落ち葉」という言葉がありました。男性が引退した後、自分の時間の使い方が分からずに奥様の後にくっついていく。一方、奥様は「亭主元気で留守がいい」というわけです。引退後にどう時間を潰すかが問題のようです。

今は、自治体等で様々なイベントがありますね。会費が 200 円とか 300 円くらいで、趣

味やら勉強やら健康管理まで、自治体が一所懸命教えてくれるようですから、そういう所へ出掛けて行くのもよいでしょう。もう少し志の高い人で、お金に若干余裕がある人は、世のため人のためになるようなことをしたいと考えるわけです。

「**隠居して以て其の志を求め**」とは、世のため人のためになるような志を追及すると捉えて下さい。

何度もお話していますが、私は石川梅次郎先生から、還暦を過ぎたら世の中にお返しをする年代だと教わりました。28歳で会社を創り、58歳でバトンタッチをし、還暦を目の前に無料の準備フォーラムを実行し、60歳から正式に中斎塾フォーラムを立ち上げました。自分を磨くにはどうしたらよいか、世のため人のためになるには何をすればよいか・・・、それは「足るを知る」という考え方を世の中に広げようと考え、信じて進めています。

「**義を行いて以て其の道を達す**」とは、義を実行して、それなりの道に達したと感ずる所までいく、と捉えて下さい。人のためになる、世のためになるということは「義」です。「義」を追及すると「仁」という動きになります。「仁」は思いやりですから、人のためになることと一致しています。

「**吾 其の語を聞けり、未だ其の人を見ざるなり**」とは、私は世のため人のためになることをやって実に良い人生を歩んでいる、という言葉を知っているけれども、本人がそう思っているのであって、周りが見てもそうだという人物はなかなかいない。私は見たことがないねえ、と孔子が言っています。

【十二】 齊の景公は、馬 千駟有り。死するの日、民、徳として称することなし。伯夷 叔齊は、首陽の下に餓う。民 今に到るまで之を称す。（誠に富を以てせず、亦 祇に異なるを以てすとは、）其れ斯れ之の謂か。

齊の国の君主景公は、馬を四千頭持っていた。大変な金持ちだった。しかし死んだ時、その徳を褒め称える国民は誰もいなかった。

伯夷・叔齊は、周の国の粟（食べ物）を食べることを恥じて、首陽山で餓死をした。しかし、国民は今に至るまで褒め称えている。

後世まで称えられるのは大金持ちではなく、自分の身を殺しても正義を貫いた人であるとは、このことを言うのだ。

会社の社長や団体のトップが亡くなると、関係者が集まって懇ろの葬式をします。徳を称えるということであれば、素晴らしい方だったと言って人が集まり涙を流す人もいます。

そういう葬儀もあるでしょう。しかし、大掛かりな葬式ではあるけれど、皆ざわざわして、心からその人を偲んで悲しんでいるのではない。残念ながら、私はそういう葬式ばかり見た記憶があります。ですから、自分が死んだときの葬式は、身内だけでそっとやるのが良いなど、最近つくづく思います。

仮に安倍さんが亡くなった時、国民葬をして、安倍さんの徳を称えて国民が涙するでしょうか。さて、皆さんも自分自身を振り返ってみななければいけません。

今日の論語ですが、時事評論を絡めて考えます。

今朝の日経新聞（11/17）の見出しは、「**中ロが握る原発市場**」とあります。中国もロシアも、習近平さんとプーチンさんの独裁ですね。この人達が死んで、50年後100年後まで称えられるようなことをしているのか、と捉えます。

同じく2面には「**英離脱 政局絡み混迷**」という記事があります。イギリスがEUから離脱をするということで、トップは引きずり降ろされました。そしてメイ首相が登場しましたが、今度はメイ降ろしで、勢いづく強硬派のリースモグ議員は、引きずり下ろすけれども自分は首相になるつもりはないと表明しています。メイ首相は亡くなった後、素晴らしい政治家だったと称えられるかどうか、リースモグ議員はどうでしょうか。

昨日の日経新聞（11/16）には「**日銀 脱マイナス金利の波紋**」と、黒田総裁の顔写真入りで載っています。「大規模緩和を始めて5年が過ぎたが、物価2%の目標を今後3年は達成できそうにない」とあります。はたして黒田総裁が亡くなった後、「大規模な緩和政策を実行して、たいした人物だった」と、後世で褒め称えられるかどうか。これも考えてみるとよろしいでしょう。

### 新聞記事の意味するもの

時事評論を続けます。

- ・ **小売り・外食に重圧 バイト時給1000円超え（11/16 日経）**
- ・ **日本郵便 封書・はがき平日のみ配達（11/17 日経）**・・・働き方改革で、過剰サービスの見直しをするとあります。
- ・ **70歳以上雇用、4社に1社（11/17 日経）**・・・70歳以上の人でも働ける企業は25.8%で、過去最高を更新したとあります。

これらの記事が意味するところは人手不足、つまり少子高齢化です。70歳を過ぎても働くのは良いことだという方向へ、政府が世論を誘導しています。少子高齢化だから、年寄りも働け！ 若年層も働け！ 女性も働け！ 働ける人は何でもかんでも働け！ という

わけです。そのために、<こうすればお金が入ります>と、あの手この手の餌をぶら下げています。お金が入ることは良いことだという前提で、通貨の仕組みは良いことだというのが裏にあるわけです。

こういう記事を見たら、この記事を書いた人間はどういう思惑で書いているか、この記事を出そうとした新聞社の意志はどこにあるのか、その新聞社を動かしているのは、いったいどの力なのか・・・等々を考える癖をつけて下さい。

政府に対して忖度・迎合して、こういう記事が出来てきていると私は考えます。尚且つ、新聞社は広告主に対して良いものしか載せません。その書き方も、書いてあることは良いことだと言わんばかり、世論の誘導を図っています。ですから、こういう記事は一度眉唾物で見ないと危ないと思って下さい。

・**幼児の教育無償化 地方、財源負担に反発**・・・幼児教育を無償化するにあたって、国は地方自治体にも負担を求めています。

・**高額返礼品 なお 25 自治体**・・・総務省は過度な返礼品がふるさと納税の趣旨をゆがめているとして制度の見直しを進めているとあります。なぜそんなことが起こったのか、なぜそういう記事を書かせたのか、等々を考えればよいでしょう。そうすると、ふるさと納税に協力するとかしないとかの判断基準が自分の心の中に生まれて来ます。

これらの見出しから見えることは、国が当事者能力を失ったということです。国は、自分で作った借金に押し潰されそうになって悲鳴を上げている。ですから平成という元号が変わったら、ガラガラポンしてガラッと変わりたいという意向が透けて見えます。

新聞記事を見たら、なぜ？ なぜ？ なぜ？ を追及していく。そうすると悟りに繋がります。

### 恒例の質問

では、恒例の質問に入る前に、本日の紹介書籍『木内信胤語録』を回覧致します。

その中に、嘘について木内信胤先生が言われた言葉があります。

**「話をする時の冒頭の挨拶慣用語は『うそ』だからやらない。」**

余計な挨拶をしなくて良い。腹の中にあるものを言うのは嘘だからやるなど言っておられます。

**「『人間は話せば分かる』などという事は大うそ。」**

人間は話せば分かるなどということは有り得ない。その人がはっと気づくしかない。はっと気づくのが本物で、人に言われてくなるほど、そうか>と思ったのは、分かるという

ことではない。分かるということは悟ること。悟るということは、はっと気づくこと。分かったというのは、小さな悟りだから、小さな悟りを沢山積み重ねていくと、はっと大きく悟ることが出来る。それが本物だと木内先生は言っておられます。

では、お聞きします。もうすぐ師走ですから、1年間で考えましょう。

○ 今年一年間、比較的嘘をつかなかった方

・・・皆さん、手が挙がりました。では、

○ 嘘は一度もつかなかったという方

・・・さすがに、一人もいません。ほどほどが良いというのは、この辺りです。世の中、あまり厳しかったり、きつかったりするのはいけませんね。

○ 一年間、比較的良い日々が続いたと思う方

○ 毎日、良い日だったという方は？

・・・お一人、林理事が手を挙げました。良い日が続くとか続かないは主観ですから、客観的に考える必要はありません。まず、夜寝る時に一日を思い起こす癖を身に付けること。そして、寝る時には、悪い事があってもフッと消して、良かったことを思い浮かべて眠る。そういう習慣が身に付けば、林さんのように、良いことばかりだったと手が挙がります。そういう心持ちが良いと思って、私も今、意識してそうしています。

○ 一年間、有難うと言い、有難うと言われることが比較的多かった方

○ 今年一年間、健康法を続けている方

健康法をやらなきゃ、やらなきゃと思っているうちは、どうしてもやらない日が多くなってしまいます。健康法は習慣にしてしまうのが良い。習慣にしてしまえば、当たり前のように身体も動いてくれます。

○ 今年は自分磨きをよくやったと思う方

私も質問しながら自分自身確認して、心の中で手を挙げています。

ここまでの質問は「知足」の考え方で聞いていけますが、次の質問は全く違いますから、切り離してお考え下さる。では、お聞きします。

○ 昨晚寝る時に、明日もしくは明日以降を過去形でイメージして寝た方

これは、一つひとつ階段を上って行って良くなるというものではなくて、ワープするような、まるで次元の違う世界に入っていくような、脳の訓練です。

## 悟り

本日のテーマは「悟り」木内信胤です。『木内信胤語録』の帯には「岩崎弥太郎・福沢諭吉 不思議な関係」と書きました。書店の棚に並んでいる本の中から、帯を見てふっと取りたくなるようなものにしたいと思って工夫しました。平積みの際は、「隠れた巨人 木内信胤（岩崎弥太郎の孫、妻は福沢諭吉の孫）が遺した、不滅の金言」と書きました。これには岩崎弥太郎と福沢諭吉が分かるという前提条件があるのですが、最近は岩崎弥太郎を知らない人が多いので、残念ながら手に取らないのです。自分の常識だと思っていたことが、どんどん前提条件にならなくなって来ているということを実感します。

自分で自分の常識を疑う必要があると、最近特に思います。一年の締めくくりに、自分の常識の棚卸しをするとよろしいでしょう。年末に出来なければ、年明け早々に考えることをお勧めします。

皆さんはスマホをお使いですか？ だんだんスマホが使えないと困る時代に入ります。以前も申しましたが、浜松町に出来たロボットホテルでは、タッチパネルを操作できないとチェックインできないような仕組みになっていました。スマホを使えるというのが前提条件で、部屋に入ってもタブレットが1台置いてあるだけ。スマホができれば自分の知りたい情報が手に入るようになっていきます。今や、スマホが使えないのは非国民のような扱いになっています。

例えば銀行もそうです。リーマンショックの後、銀行は合併に継ぐ合併と経費削減で、行員を減らしたい。そのためには電子決済を増やし、銀行に来る人を減らして窓口業務をなくしたいわけです。政府もそういう思惑がありますから、スマホが使えない人はますます非国民のような扱いになるのでしょう。

人生100年時代で、まだまだこれから30年40年生きるわけだから、やはりスマホが使えないと困るし、不便なことが世の中にどんどん出て来ます。

ということで、これも一つの小さな「悟り」です。小さな「悟り」とは、「納得」と置き換えます。

余談ですが、納得ということで、先日納得できないことがありました。年末調整でシムックスから「扶養控除等申請書」なるものを提出して下さいと言われました。配偶者控除を受けられるかどうかの証明を出しなさいというわけです。結局、社労士さんに確認したら配偶者控除を受けないなら出さなくてよいということでした。田島監事曰く、提出については2年前に決まっていたそうですが、そんなことは抜けてしまいますから、寝耳に水で施行されるという感覚です。日本国はあの手この手で税金をむしり取ろうとしていま

すが、それが加速していると感じます。

日本の国は、どうしても国を動かす時に嘘を沢山ついているという印象です。どうして  
そう思うか、木内先生の言葉からいくつか引用します。

**「文明問題を考えていると、英語でも独語でも、永年苦しんでいたら、色々な事がフツ  
と気がつく。この心の作用が必要である。自得しなければならない。人に言われただけで  
は駄目だ。自分で「あ！！ そうか」と気がつかなければ本物ではない。」**

**「人間社会は悟りによって向上する。」**

「悟る」というのは、自分で「あっ、そうか！」と思わなければいけません。はっと思  
わない限り身につきません。私は会社で社員教育をする時など、以前は、机に肘をついて  
聞いていたり足を組んでふんぞり返っている人間がいると、「出ていけ！」と言っていま  
した。そのうち、気にしないで放っておくようにしていた時期もありますが、最近、そ  
ういう姿勢はよくないと話をするのが相手に対して親切だと思って、注意をしています。  
ですが、本人が恥をかいたと思わなければ、はっと気がつかないわけです。人間は恥をか  
かないと、ものを覚えません。

**「決断は辛いものであり、決断するのは早ければ早い程良い。決断は瞬時にするもので  
あり、頭はその様に使うものである。決断する時は、一番悪い結果を見据えれば可能とな  
り、見据えて分かる為には、知恵の積み重ねが必要である。それは仏教で言う悟りである。」**

会社や組織のトップ、或いは家庭の大黒柱といった感覚でお読み戴くとよろしいでしょ  
う。例えば、社長が齢をとって、そろそろバトンタッチしなければならないと思っている。  
けれども息子に任せるには、まだ修行が足りないと思っている。自分で自分の首を飛ばす  
という決断は辛いものであり、・・・と考えればよいでしょう。

或いは、会社で不祥事が起きたとします。そうすると、大概、問題を隠そうとします。  
スバルしかり、日産しかりです。しかしその結果、世間に知れて、糾弾されて会社が倒産  
し社員が路頭に迷う・・・そういう最悪の結果を見据えて、食い止めるためにはどうした  
ら良いか考えれば良い。そのためには知恵の積み重ねが必要である、と木内先生は言っ  
ておられます。

知恵の積み重ねとは、横の知識をどんどん増やすことです。そして、横の知識が本物に  
なるには、縦の学問ではっと気づかなければいけません。はっと気づくには、自分はこん

なことも分からなかったのかと、<恥ずかしい>と思うことがキーワードです。自分に増長があると、はっと気がつきません。はっと気がつく人は、悟る人です。

繰り返しますと、悟るにははっと気がつくこと。はっと気がつくには、沢山の横の知識プラス縦の学問がなければいけません。なるべくどこかではっとする経験を積み重ねましょう。はっとする経験があると人さまにも優しくなって、思いやりが生まれて来ます。

思いやりが生まれると、時には、本人にとってきつい言い方になるものです。私は、<この人を何とかものにしてあげたい>と思ったら、本人が恥をかくように言います。ですから恥をかかされたと思っている方は、もう一息で良くなるから頑張ってください！というエールだと思って下さい。

最後に、人間が人間としてものになるには、「悟る」ということを腹の中にずっしり修めることが必要だと申し上げて、本日は終了と致します。有難うございました。